

城内エリアに 文化施設を新築

昭和40年頃から城内に図書館・博物館・美術館などが新築され、
教育・文化の中核は城内にシフトしました。

銅

像建立を機に鍋島直大公なおひろが松原に設立した佐賀図書館は、昭和4年(1929)に佐賀県へ寄附され「県立佐賀図書館」となり、昭和38年(1963)に現在の佐賀県立図書館が新築され城内へ移転しました。

徴古館は、昭和30年(1955)にNHKが商工会館に移転したことで、新たに歴史美術展示を行う佐賀県文化館ぶんかかんとして活用されましたが、昭和45年(1970)に新設された県立博物館に役割を引き継ぎました。さらに、NHKが松原から城内へ移り(昭和43年)、県立美術館(昭和58年)や佐賀城本丸歴史館(平成16年)が開館します。そして、かつて松原の銅像園の象徴だった直正公銅像は、平成29年(2017)城内に再建されました。

佐賀市役所は昭和50年(1975)に松原から現在地に移転し、公会堂こうかいどうも老朽化により佐賀市民会館が水ヶ江に新築され役割を終えました(昭和41年)。

昭和・平成の新たな佐賀の発展を目指し、歴史・文化施設の多くは松原の地をあとにして城内へシフトしましたが、鍋島家からは昭和38年の県立図書館落成を機に文書典籍資料が寄託され、県立博物館には美術工芸品が寄託されるなど、近代的な図書館・博物館機能を通じて鍋島家資料が活かされました。



佐賀県立図書館閲覧室

松原にあった頃の佐賀図書館
佐賀県立図書館所蔵

